

Kids English 教室の経過と展望

樟蔭学園英語教育センター
コーディネーター 山岡 賢三

1. はじめに

Kids English 教室は幼稚園児および小学生を対象にした英語活動体験教室である。子ども向け英語体験プログラムを英語教育センター（以後、ELTC）が提供することで、本学園の知名度・社会貢献度を高めることを目的とする。

Kids English 教室宣伝用チラシには、「Passport to the Future!」「英語は未来へのパスポート!」というスローガンの下、「早い時期から歌やゲームなど体験を通して英語に親しむことが上達への早道である」と謳っている。また、子ども英語を専門とする大学のネイティブ教員が担当し、発達段階に応じて楽しいアクティビティが用意されているのがこの教室の特徴であるとも唱えている。

平成 21 年日本児童英語教育学会（JASTEC）プロジェクトチームが高校生 1,831 名（早期英語学習経験者：1,174 名、未経験者：657 名）を対象に実施した情意面に関する質問紙調査によれば、「早期英語学習経験者は『英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度』『英語学習や自文化・異文化への関心・態度』など、英語学習に対する肯定的な態度が育まれていると考えられる」⁽¹⁾と報告されている。このような報告に鑑み、Kids English 教室は、受講した子どもたちの英語学習に対する肯定的な態度が生涯にわたり育まれることを目指すものである。

2. Kids English 教室の発足と経過

Kids English 教室は、平成 25 年 5 月、大阪樟蔭女子大学公開講座の一講座として当時の小阪キャンパスでスタートした。本学国際英語学科 Jason Moser 准教授が企画、児童英語教育の経験が豊富な Tony Minotti 専任講師が講師を担当し、ELTC はそのバックアップを引き受けることになった。

発足した一年目、公開講座は大人向けであり、園児・児童を対象とした Kids English 教室は運営上やりづらい面もあった。そこで、平成 26 年度から

は大学の公開講座から独立し、ELTC が全面的に事務を引き継ぎ、授業は国際英語学科が担当する現在の形となった。

これ以前にも、関屋キャンパスでは児童学部の Robert Maran 教授が近隣の園児を集め英語教室を開いたり、小阪キャンパスでは英米文学科（現国際英語学科）の米田ボニー教授が英米文学科の学生を対象に「English for Kids」という授業⁽²⁾を開講し、附属幼稚園の園児に英語を教えていた。また、平成 25・26 年度には Robert Maran 教授と Jason Moser 准教授による小学生を対象とした「英語読み聞かせ講座」も開かれていた。平成 27 年度のキャンパス統合に伴い、それぞれの園児・児童を対象とした英語講座を、「Kids English 教室」の名の下に統合する必要があった。そこで、平成 26 年 11 月、ELTC コーディネーターが Robert Maran 教授と Tony Minotti 専任講師と会合を重ね、現在の Kids English 教室に統合された。

3. Kids English 教室の内容

平成 27 年度の Kids English 教室は、前期（5 月～7 月）10 回、後期（9 月～3 月）16 回、年間計 26 回、土曜日午前に ELTC で開催している。クラスは A：幼稚園年長児、B：小学生（初心者）、B+：小学生（経験 1 年以上）、C：小学生（経験 2 年以上）である。平成 26 年度の実施状況から B と C の間のレベルにクラスを作る必要性が生じ、平成 27 年度から B+ を新設した。A と B は 1 クラス定員 10 名、B+ と C は 15 名で募集し、平成 27 年度の受講者の人数は、A：10 名、B：9 名、B+：10 名、C：5 名の計 34 名である。講師は Tony Minotti 専任講師と Polona Frascarelli 英語指導助手（ELTC 所属）が担当し、アシスタントとして本学学生を雇用している。

テキストは Tony Minotti 専任講師が作成したものを製本し、受講者に販売して使っている。テキストは以下の内容で、それぞれのレベルに合わせて、難易度や単語量を変えながら、何度もくり返し同じトピックに触れスパイラルに学習できるようカリキュラムが組まれている。

1. Colors, 2. Animals, 3. Foods, 4. Numbers, 5. Days of the Week, 6. Months, 7. Jobs, 8. Places, 9. Body, 10. Family, 11. Classroom Objects, 12. Rooms in a House, 13. Sports, 14. Cloths, 15. Daily routines, 16. Feeling, 17. Weather, 18. Transportation, 19. Countries / Nationalities, 20. Opposites, 21. Countable and Uncountable, 22. Prepositions of place, 23. For and Since, 24. Future-Going to,

25.Action verbs

上記の内容に加え、Halloween や Christmas などのイベントも教材として扱っている。また、B+ からは少しずつフォニックスを取り入れ、英語の文字と音をつなげる指導をしている。C では中学校の学習につながるようショートストーリーを使って英語の文を読ませている。

4. Kids English 教室とワークショップ

ELTC は、樟蔭学園としての英語教育メソッドの確立、各校学年段階における到達目標の設定を通して、中学・高校・大学の英語一貫教育を確立し、学生・生徒が将来「英語が使える」女性として様々な分野で活躍できるよう、幅広い支援を提供している。その活動の一つとして、大阪府・市、奈良県を中心に近畿圏内の多くの英語教育に携わる教員および英語教育に関心のある方に受講してもらうため毎年1回、著名な講師を招きワークショップを開催している。平成25年11月16日に開催したワークショップは Kid English 教室を意識した内容であった。

第1部は、樟蔭幼稚園の園児を対象に本学 Tony Minotti 専任講師が公開授業を行った。普段の生活で使う体の各部の名称を、歌や体を動かして学び、アクティビティを通して定着させる構成で、園児はゲームを通して楽しみながら英単語を習得し、園児の率直な反応を生で観察できる良い機会となった。また、アシスタントとして参加した樟蔭高校児童教育コース3年生は、園児の扱いや英語を使っての補助など日々の努力の成果を十分実践力として発揮し、授業後の「Kids English の取り組み」の報告が、一般参加者に学園の「子ども英語の取り組み」についてより深く理解できる内容となった。

第2部講演では、日本児童英語教育学会会長・大阪成蹊大学教授國方太司氏に、「児童英語教育の可能性を考える:現状と課題」というテーマで、グローバル化に対応した学校教育について、小学校「外国語活動」の現状と課題を話していただき、早期英語教育の今後の可能性や発展性についても理解を深める貴重な時間となった。

5. Kids English 教室の展望

国は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、「初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校

における英語教育の拡充強化，中・高等学校における英語教育の高度化，小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る」⁽³⁾ことを掲げている。東京オリンピック・パラリンピックに向けて，国自体が英語教育を推し進め，国民全体の英語教育熱が当分の間続くことが予想される。現に幼児期から英語を学び始める子どもが増え，Kids English 教室の参加者希望者も年々増加している。

ところが，当 Kids English 教室はあくまでも本学園の知名度・社会貢献度を高めることを第一の目的としているため，受講者を増やすことを目的にしている。つまり，損をしない程度に本学園の宣伝に役立てればよいという考え方である。そのような発想の元では，Kids English 教室の展望は望めない。そこで，Kids English 教室をビジネスチャンスと捉え，発展させていく展望を述べる。

5-1. 信頼できるカリキュラムと安価な授業料

Kids English 教室は本大学の経験豊かな外国人講師が担当し，他の英語教室と比べても安価な授業料で提供していることに意味がある。子どもの発達段階に合わせたきめ細かな教材とカリキュラムは「樟蔭オリジナルメソッド」としてセールスポイントとなる。

5-2. 幼稚園から中学に連結

樟蔭学園には小学校は存在しない。Kids English 教室では，樟蔭幼稚園で英語を学び始め，小学校は別々の学校へ行っても，そのまま教室に通い続けている子どもが多い。その中で小学校は違う学校へ行ったが，また樟蔭に戻りたい，樟蔭中学校へ進学したいと公言している子どももいる。保護者も子どもと共に Kids English 教室に通い，キャンパスの雰囲気や施設の充実，樟蔭生を目の辺りにし，子どもを樟蔭に入学させたいと考えるようになる。

5-3. 学生のキャリアアップ

樟蔭高校の児童教育コースは平成 23 年度「英語が使える小学校・幼稚園教諭，保育士をめざすこと」を目的に設置された。高校 1 年からイングリッシュキャンプや「英会話」の授業など，英語によるコミュニケーション能力の育成に力を入れている。現在その学生は本大学の児童教育学部 2 年生にな

り、その中の何人かが学生サークル Lee & Lee に所属している。Lee & Lee の ‘Lee’ は ‘Let’s enjoy English!’ の略語である。つまり、英語を楽しむサークルで英語使って様々な活動をしている。そういう彼女たちを Kids English 教室のアシスタントとして雇用し、幼児・児童英語教育の経験を積ませることによって、「英語が使える小学校・幼稚園教諭，保育士をめざすこと」につなげるのである。

5-4. 施設の有効利用

現在、ELTC は月曜日～金曜日の 10 時～18 時，土曜日の 8 時 30 分～16 時 30 分開館している。月曜日～金曜日の 18 時以降，土曜日の 16 時 30 分以降の時間帯は施設として活用していない。また、ELTC の隣接する部屋は学生支援のための部屋で、学生以外は利用できない決まりになっている。しかし、実際には土曜日の午前中利用されていることはない。このような状況の中で、少しのルール変更を試みれば、有効な施設利用が可能となる。

6. まとめ

2018 年問題⁽⁴⁾を抱える学園としては、減り続ける大学適齢人口問題に対して、何とんでも新しいマーケットを開発する必要がある。そういう意味で、Kids English 教室増設や新たに Senior English 教室（退職したシルバーエイジを対象とした英会話教室）、Mom’s English 教室（子育ての母親を対象とした英会話教室）を開設するなど、国民の英語学習熱が続くこの時期に英語教育関係の教室を開設することは意義深い。現に English Salon（樟蔭学園卒業生向けの英会話交流会）やホームカミングデイに参加した年輩の卒業生たちから直接英会話教室開設の依頼を受けたことがある。樟蔭学園は樟蔭を愛する卒業生を大切にしなければならない。その樟蔭愛が祖母，母，娘へと受け継がれるのである。学生・生徒募集とは一見異なるこのような試みも最終的に学生・生徒確保につながると信じる。

ELTC が大学の施設であるならば、対象は大学生でなければならないが、法人の施設である ELTC だからこそ、その対象は幼児からシルバーエイジまで広めることができる。学校法人では制限が多く実現不可能な事業も、樟蔭エンタープライズが絡めば新しい事業も可能になりうる。つまり、行動する一歩が重要である。限られたパイを奪い合うだけでなく、新しいパイを開拓

する。要するに発想の転換が求められるのではないだろうか。

【注】

- (1) 平成 25 年度樟蔭学園英語教育センターワークショップ「児童英語教育の可能性を考える：現状と課題」國方太司（大阪成蹊大学教授・日本児童英語教育学会会長）講演資料より
- (2) この授業は現在 Tony Minotti 専任講師が引き継いでいる。
- (3) 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」文部科学省 2013 年
- (4) 日本の 18 歳の人口が 2018 年頃から減り始め、大学進学者が減っていくこと。